

## 5. 報告

### 梅田地区エリアマネジメント実践連絡会

/阪急阪神不動産株式会社都市マネジメント事業部梅田まちづくりグループ 高田梓氏

皆さんこんにちは。今日はようこそ大阪にお越しくださいました。梅田地区エリアマネジメント実践連絡会は、この秋で10周年を迎えます。この10年の取り組みを、ご紹介させていただきます。最初に、今日初めて梅田に来たという方いらっしゃいますか。ありがとうございます。後半のディスカッションでお話されるミッシェルさんも、関西に来られたことが4回あるということで、梅田の雰囲気は皆さんお分かりいただけているということでお話をさせていただきます。

まず、「過去10年間で進んだ開発」をご紹介させていただきます。我々のエリマネ団体をつくった経緯になります。地図上で、過去10年に再開発で建設された建物が青い箇所、うめきた2期が緑色の箇所で、梅田だけでも10年間でこれだけの開発が進んできました。実践連絡会は4社で構成していますが、その一社であるJRの建替えが2011年に行われ、2012年には阪急電鉄が阪急百貨店も含めたビルを建替え、2013年にはグランフロント大阪が開業しました。現在、2020年竣工に向けて大阪梅田ツインタワーサウスも建設中です。実践連絡会の4社だけでも、合計約90haの増床がなされ、開発が大きく進んだ状況です。その中で、ハード面だけでなくソフト面でも連携していくことが大事ではないかということで、2009年に、JR西日本(株)、阪急電鉄(株)、阪神電鉄(株)、グランフロント大阪TMOの4社で実践連絡会を創設しました。鉄道ライバル会社とも呼ばれる鉄道3社が一つの団体をつくっていることも特徴かと思えます。大規模開発が起こる中で、出来ることから進めていこうということで、団体名に「実践」という言葉を入れています。

ご覧のコンセプトに基づいて行っているエリマネ活動を、ご紹介させていただきます。梅田の1km<sup>2</sup>が活動エリアです。実践連絡会とグランフロント大阪TMOを混同される方もおられますが、約7haのエリアの運営をしているのがグランフロント大阪TMOで、そのTMOも含めた4社で、全体の大梅田において活動しているのが我々の実践連絡会です。

活動の一つ目は、「梅田スノーマンフェスティバル」です。連絡会創設時から開催し、今年で10回目を迎えます。とにかく梅田の中を回遊してほしいという思いで、スタンプラリーなどを盛り込んで、毎年冬に開催しています。過去9年の実績ですが、各商業施設の多くの店舗に参加いただくとともに、梅田でパフォーマンスをしたいという思いのある団体の活動の場ともなっています。近年は、オープンスペースの活用特に注力しており、公開空地や道路を使って、イベントを開催しています。写真は2014年のスノーマンフェスティバルの様子ですが、梅田の音楽学校の方々に協力いただき、各場所で聖歌隊として歌っていただきました。

「ゆかた祭り」は7月から8月の一か月間開催しており、今年で9回目を迎えました。こちらも皆さんに回遊していただき、賑わいをつくりたいということで始めました。左上の写真は、道路を一時通行止めにして、休憩場所をつくったものです。右上の写真は、皆さんに参加していただく打ち水で、近隣の企業の方にも事前にお声がけして参加していただいています。夕方からは、グランフロント大阪にあるうめきた広場で、盆踊りを行います。最近、盆踊りがブームになってきているようで、非常に多くの方に参加いただいています。前で踊っていただいているのは、地元の女性会の皆さんです。近年、地域での活動の場がなかなかないということもあり、ゆかた祭りのイベントに出ていただくこ

とで、地域連携を図っています。

次に、「エリアの課題解決に向けたエリマネ活動の展開」について、ご紹介します。一つ目が、「防災」です。梅田は非常に多くの来街者がおられますので、災害時の帰宅困難も、課題の一つです。実践連絡会では、イベントの中で AED 講習を行うことから始め、2年前からはプロジェクトチームを立ち上げて、来街者自身の防災力を高めるための啓発活動として、ポスターをつくって梅田周辺のサイネージで PR するなどという活動をしています。また、防災の共助力を高めるには地域の連携が必要だということで、梅田のオフィスワーカーに向けたセミナーも開催しています。他に「防犯・美観」「清掃」という観点でいきますと、イベントの開催にあわせた清掃活動や、地元自治会の皆様との清掃活動も行っています。大阪市に水を運んでいただくというお力添えもいただいています。

少し珍しい取り組みかと思いますが、実践連絡会が中心となって作成した「大阪駅周辺地区サイン計画ガイドライン」があります。梅田は地下が広く、それぞれの管理エリアが違うので、誘導サインが途中で切れてしまうとか、サインが異なるという問題があったため、大阪市などの行政や他の交通機関の方とも協同で作成しました。実際に、サイン整備を行うときには、共通のルールに基づいた改修が行われています。それから、梅田は来街者が非常に多く、一日約 1 万 2 千件の問い合わせが各施設のインフォメーションにあります。そういった各インフォメーションで対応される方のためのコミュニケーションの場をつくらうということで、実践連絡会で、「UMEDA i ハーツ」というミーティングを開催しています。公共交通機関、商業施設などの 27 施設で、実際にインフォメーションに立っている方が困っていることなどを共有する場になっています。

この 10 年間の変化を数字でまとめています。我々の取り組みが直接寄与したものではありませんが、10 年間の開発により、トリップ数や滞留数からも、梅田の来街者がより多くなったことが分かります。また、自動車発着数が 3/4 まで減少し、車の量が減っている現状があります。

「更なる 10 年に向けた活動」ですが、次期活動戦略の策定の図は、昨年、全国エリマネの幹事会メンバーで合宿したときに、まとめたものをベースに作成しました。基本となる「防犯・清掃」「防災」は引き続きやっていますが、三角形の上にある「創造的環境創出」にも、エリマネとして取り組んでいきたいと考えています。その一つとして、2017 年から「Walkable UMEDA 構想」の検討を始めています。梅田の「梅田コネクトロード」というエリアを、人にとって回遊しやすい空間に変えていきたいと考えています。具体的には、これから社会実験をしながら、人にとって歩きやすい街を目指していきたいと思っています。

最後に、「大阪におけるエリアマネジメントの展開」です。大阪では、大阪市主催で「大阪エリアマネジメント活性化会議」が開催されています。北は梅田から、南はなんばまで、エリマネ 8 団体の情報共有や、今後、市とともにどういった取り組みができるかを考える会議です。我々のこれまでの活動は、地元の方々や行政の協力なくしては、成し得ませんでした。これから、Walkable 構想を推進するには、これまで以上のお力添えをお願いできればと思っております。また、取り組みの中で分からないことがあると、全国エリマネの他のエリアの皆様にお話を聞きながら、進めてこられたことを、今回の資料を作成しながら改めて感じました。お礼申し上げますとともに、このつながりを大切に、これからも活動していきたいと思っております。ご清聴、ありがとうございました。